記入例

系統解剖において、「臨床診断」は死亡診断書（死体検案書）を参照し死因を記入してください。また、「剖検診断」は空欄で差し支えありません。

胸腔及び腹腔を開検し、頭蓋腔を開検していない場合は、備考欄にその旨を必ず記入してください。

解　剖　調　書　（系統・病理・法医）

死体番号	性別	年齢	指導者の職名及び氏名	解剖年月　日時	解剖場所	臨床診断	剖検診断	備考
○○○○	○	○歳	○○○○	令和○年○月○日	A病院	心原性脳塞栓症	脳幹梗塞、ラクナ梗塞	
○○○○	○	○歳	○○○○	令和○年○月○日	A病院	間質性肺炎	特発性肺線維症	頭蓋腔を開検せず、胸腔及び腹腔のみ開検

下記の(注意)を必ずお読み頂き、ご記入お願いいたします。

（注意）

1　系統・病理・法医の別については該当するものを○で囲むこと。
2　「死体番号」とは剖検記録等に記載されている番号であること。
3　本調書に記載される全ての解剖例について、申請者自らが頭蓋腔、胸腔及び腹腔を開検し、解剖報告書等を作成していることを要する。
4　必要に応じて、解剖報告書等の提出を求めることがあるため、申請者において解剖報告書の写しを保管しておくこと。
5　頭蓋腔を開検せず、胸腔及び腹腔を開検した解剖例を記載する際は、備考にその旨を記載すること。
6　医師及び歯科医師については直近の5年以内の20体に係るものを記入すること。
7　医師又は歯科医師以外の者については年次ごとに別葉とし、直近の5年以内の50体に係るものを記入すること。